

# 岡田宮

(宝永4年) 1707年 貝原益軒書

## 第 44 号

平成19年11月吉日  
発行 岡田宮社務所  
北九州市八幡西区岡田町1番1号  
郵便番号 806-0063  
電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330

## 神さまはいつも、

## あなたを

## 見守っています

神さまはどこにいらつしやるのでしょうか。神社でしようか？ 野山でしようか？ 心の中という人もいるかもしれません。実はあなたのすぐ近く、家中にもいらつしやるのです。

それは、いえにある神棚のことです。昔から日本人は、生活に欠かすことのできない、大切な場所に神さまをおまつりしてきましたが、家の中でおまつりするために設けられたのが神棚です。棚におまつりすることは、神聖で尊いものを他から区別するという意味があります。

家の門口や台所などにお神札を飾り、竈の荒神さまには荒神棚をしつらえ、井戸には水神さまを、季節の節目に家に訪れる年神さまやお盆さま（祖先の霊）には臨時の棚を設けておまつりし、神さまの存在を家族と同じように感じてきました。そして、おまつりを通して神さまの恵みに感謝する心を養うとともに、優しさや思いやりの心を育んできました。

神さまを棚におまつりすることは、奈良時代に編纂された『古事記』に、皇室の御祖神でもある天照大御神が、お父さまである伊弉那岐神から玉を賜り、これを神聖なものとして棚におまつりされたことに

由来しています。

天照大御神をおまつりしている伊勢の神宮では、かつて御師と呼ばれる人々によって、神宮大麻が全国に頒布されてきました。このお神札をおまつりするために、各家庭で特別に設けられたのが、大神宮棚と呼ばれるもので、これが、今日の神棚の起源ともいわれています。

神棚を通して毎日、家庭でのおまつりを行うとともに、私たちは古くから人生の節目ごとに、さまざまに儀礼・行事を行ってきました。地域の神社を氏神さまと仰ぎ、入学・結婚・子供の誕生など、人生の節目ごとに家族や地域を挙げてお祝いしてきました。

そうした身近な人生のまつりを通してまた、私たちは知らず知らずのうちに神さまの存在を感じてきたのではないのでしょうか。

## 氏神さま

氏神さまとは、古くは一族（氏）の守り神のことをいいましたが、今日では、地域の守り神のことをいいます。一般には私たちの住まいの近くにある神社がそれで、私たちの生活を守ってくださいます。

この氏神さまに対して私たちは氏子と呼ばれます。神さまは親で、私たちはその子であるという関係で結ばれている存在なのです。

第十三回 岡田神社書道展

会期 平成19年7月23日(月) ~29日(日)

表彰式 平成19年7月29日(日)

総出品点数 721点



- 岡田宮賞
- 小1 櫻井里美
  - 小2 古橋郁子
  - 小3 福岡瑚都
  - 小4 井口 瞳
  - 小5 櫻井永祥
  - 小6 勇 大地
  - 中1 遠藤智樹
  - 中2 勇 佑多

- 総代会長賞
- 小1 有松希恵
  - 小2 永吉春香
  - 小3 豊岡玲那人
  - 小4 古橋章子
  - 小5 茂司亜梨紗
  - 小6 益本大地
  - 中1 三谷結香
  - 中3 日高真子

- 特選
- 小1 大淵綺奈
  - 桑田陽菜
  - 後藤 健
  - 廣渡侃樹
  - 立山陽月
  - 中村麻梨奈
  - 小2 井上優実
  - 東 未奈
  - 益本志帆
  - 立山陽菜
  - 今泉佑季子
  - 市川潮音
  - 原口優輝
  - 小3 兵頭賢明

- 小3 福島もも子
- 佐野綾芽
- 御手洗彩香
- 千々和美紅
- 皇甫 萌
- 久野紗代子
- 福永美菜子
- 山下 滯
- 原田一心
- 米丸友章
- 高倉優希乃
- 楠本直生
- 境 莉緒
- 小4 奥田風音
- 松浦良哉
- 御手洗雄斗
- 青木佳穂
- 益本勝利
- 岩元理歩
- 古賀尚人
- 田中琴子
- 長家満里奈
- 坂口拓海
- 小5 岩佐真奈
- 小川美緑

- 小5 木下智恵
- 梅田あゆみ
- 大庭ほのか
- 吉田佳子
- 東 鈴乃
- 松田瑞季
- 宮川望夏
- 讚井直之
- 原田佳織
- 桑田涼可
- 末吉優奈
- 松浦功将
- 伊藤一希
- 池田菜々
- 黄檗綾子
- 安西萌木
- 佐藤琴音
- 中村はるな

- 小6 平田理佐子
- 木下珠利亜
- 江口茉佑
- 中1 上野 航
- 讚井志織
- 西森蓮菜
- 豊島将太
- 天野真佑里
- 藤田夏美
- 手嶋智樹
- 鶴岡大紀
- 森賀千晶
- 吉田さやか
- 江田千亜紀
- 池尻有希
- 青木綾香
- 中3 大倉野亜未
- 柴田采果



郷土地名考 44

頓田(とんだ)

大部分は人造湖の頓田貯水池で、方域二四〇ヘクタールの響灘緑地自然公園となっている。玄海青年の家やサイクリングロード、遊歩道など市民の行楽地。貯水池は第一が昭和二十七年、第二が四十三年完工、有効貯水量一、〇〇〇万トン。建設中は枯れた木立が湖上に林立し、ちよつと上高地の大正池を思わせた。

地名のゆかりは泥田がなまって、ドンダがトンダになったというのがひとつ。田が飛び飛びにあったから飛田で、転化してトンダ。この方が分かり易い。大阪にあった飛田遊郭はトンダと読む。





# 神社 なぜ なぜ 問 答

(その44)



## 「破魔矢」

### について 教えて下さい。

お正月に神社に参拝した際、破魔矢を受けられる方は多いことかと思ひます。破魔矢は正月の期間中に社頭で頒布されている授与品の一つで、その年の干支の絵馬が付いたものがあるなど、一年間お飾りする縁起物となっています。

破魔矢の由来は、元来、破魔弓と一式になったものであり、全国各地に見られる年占の際におこなわれた弓射を起源にするものともいわれています。これは各地区ご

とに弓射を競い、勝った方がその年の豊作に恵まれるというもので、作物の豊凶を占うためにおこなわれてきました。

また、正月の男児の遊戯としても用いられていましたが、江戸時代以降、子供の成長の無事を祈る縁起物として、装飾を施した弓と矢が男児の初正月や初節供に贈られるようになりました。(女児は羽子板)。その後、これが簡略化されて矢だけが魔除けとして、正月に神社で授けられるようになったと考えられます。

破魔矢はその名称の通り、魔を破り、災厄を祓う矢として信仰されています。建築の上棟祭の折にも鬼門の方角である東北と裏鬼門の方角である西南の方向に向けて、屋上に二張の飾り弓矢を設けたり、鳴弦(めいげん)の儀と称して、神職が実際にこの方向に向けて弓の弦を打ち鳴らす所作をおこなうのもこうしたことに基づくものです。しかし、破魔という字を当てたのは後世のことであり、本来「ハマ」とは弓射に用いた丸いのこと、

各地に濱井場(はまいば)という地名が残るのも初春に「ハマ」を射た場所であることを意味したものとする説などもあります(柳田国男「濱弓考」)。

さて破魔矢の飾り方についてですが、神棚や床の間など清浄な場所に飾って戴ければ問題ありません。矢先の方角についても上棟祭の場合のように特に決められた方向はないと思います。

## 編集部より

神道についての素朴な疑問等を募集しております。神社本庁教学研究部の協力でお答えします。

ご質問は紙面の都合上、基礎的な質問に限らせていただきます。質問者の氏名等は掲載いたしません。お名前、ご連絡先は忘れずをお願いします。

## 平成二十年の厄年

(年齢は数え年)

### 厄年(男)

二十四才	前厄	昭和六十年生
二十五才	大厄	五十九年生
二十六才	後厄	五十八年生
四十一才	前厄	四十三年生
四十二才	大厄	四十二年生
四十三才	後厄	四十一年生
六十才	前厄	二十四年生
六十一才	大厄	二十三年生
六十二才	後厄	二十二年生

### 厄年(女)

十八才	前厄	平成三年生
十九才	大厄	二年生
二十才	後厄	元年
三十二才	前厄	昭和五十二年生
三十三才	大厄	五十一年生
三十四才	後厄	五十年生
三十六才	前厄	四十八年生
三十七才	大厄	四十七年生
三十八才	後厄	四十六年生

## ◆ 厄年大祭 二月節分日

# 年末年始の行事案内

## ●大祓

十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形式に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

## ●歳旦祭

一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事。午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

## ●開運福引き

一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。一等は羽根ぶとんなどが当ります。新年の運のためにどうぞ。

## ●どんど焼祭

一月十四日(月) 成人の日

古くなったワ縄、門松等を焼納する神事。

地元の有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。



## ●特別祈願祭

一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

## ●成人奉告祭

一月十四日

新成人のお祓いをします。

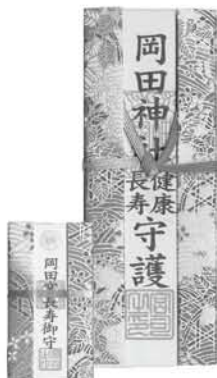
平成二十年度

## 算賀の年祝

還暦	六十一才	(年齢は数え年)
古稀	七十才	昭和二十三年生
喜寿	七十七才	昭和十四年生
傘寿	八十才	昭和七年生
米寿	八十八才	昭和四年生
卒寿	九十才	大正十年生
白寿	九十九才	大正八年生
		明治四十三年生

## 健康長寿のお守り

お祓いを受けた方に差し上げられます。



# 有川写真館

八幡西区岡田町1-44-3F TEL 0120-62-2080  
本店を黒崎鎮守の森 岡田宮鳥居横 尾畑ビル3階に移転いたしました

## 岡田宮スタジオ(境内)

0120-620-753

## 神社挙式プラン

(挙式料・衣装・写真1枚込み) 98,250〜

宮参り・七五三・入園・入学など  
(お子様の衣装・着付け・ヘアメイク無料)

## レンタルお出かけ衣装

1着 ¥5,000〜 (お子様に限りです)

## 撮影料金

四切	1ポーズ	1枚	¥10,500
四切	2ポーズ	2枚	¥21,000
四切	3ポーズ	3枚	¥27,000